



【空き家入居者】
愛知県から令和2年12月に移住
森島 浩平さん(右)と由希子さん(左)

あわら市空き家 情報バンク

入居希望者と登録物件 のマッチング事例を紹介

Interview

移住



空き家

Interview

農業をするためあわらへ
「大切なのは人。あたたかい人
に出会えたから、ここを選んだ」

区として空き家を放置したくない
「心から柿原に来てくれてありがとう
と伝えたい」



【空き家所有者】
柿原区長
堀川 治夫さん

「移住前は、どんなところに住んでいましたか。また、きっかけは何でしたか。」
愛知県春日井市に住んでいました。それほど都会ではありませんが、人口が多く、田園風景とは無縁の住宅街でした。もちろん区や村の付き合いもありません。毎日の生活が、家族だけで完結してしまっているので他の誰とも繋がらないこともあり、都会の生活自体が息苦しく感じていました。前の仕事は充実していましたが、拘束時間が長く、家族との時間が全く取れませんでした。何か変えないといけないと思い、夫婦二人で腰を落着けて取り組める仕事につきたいと考えました。
そこで、自分が作ったものが出荷される、毎年、工夫しながら改良していくという農業の魅力を感じ、地方に移住したいと決意しました。
「あわら市を選んだ理由を教えてください。」
移住の候補地として和歌山や静岡、広島などがありました。視察を行い、Uターンセンターに相談してきた中で、福井の人が一番優しくあたたかい印象だったので福井に決めました。また、「ふくい園芸カレッジ」という農業の研修施設があわら市にあったのも理由の一つです。農作物を育てる段階から販売までを学ぶことができる施設は全国的に少ないです。
移住先として、福井県内の他の市町も考えていましたが、住まい探しで何度か柿原を訪れた際、皆さんが本当に親切だっ

「柿原区が空き家を取得した経緯を教えてください。」
北陸新幹線工事事業者(前田JV)が従業員の住居を探していて、柿原区に賃貸の良い物件がないか問い合わせがありました。ちょうどいい空き家があったので、区から所有者に貸してもらえないか依頼したところ、早く手放したいという所有者の意向が強かったため、平成29年8月に区が購入し、それを前田JVに勧めました。建物の改修やエアコンの設置などはJVの負担で行っています。
所有者が年に何度か管理していたため、建物そのものの状態は悪くはありませんでした。区民が家を建て替える際、間借りしていたこともあります。
ただ、JVとの賃貸借契約の期間が令和2年9月までだったことから、その後どうやって活用したら良いか区の中で課題となっていました。区内にある空き倉庫で練習している金津高校野球部の休憩場所や、越前柿の収穫体験ができるホームステイの場として使えないか検討していましたが、早く手を打たないと老朽化するので、今後の管理も不安でした。
「どうやって「空き家情報バンク」に登録しましたか。」
JVが退去した後、市の担当者から「空き家情報バンクに登録しませんか」と声を掛けていただき、令和2年10月に登録しました。
その後、この空き家情報バンクを利用

たのでここに住もうと決めました。
永住するとなると、住みやすいかどうか重要だと思います。あわら市は一番親しみやすく、下町感が溢れていますね。
「今のお住いに入居した経緯を教えてください。」
当初は、園芸カレッジに近い古民家に住みたいと思っていました。近隣の不動産業者にもあたってみました。すぐに住める状態の物件があまりなかったため、市に相談したところ、「空き家情報バンク」に登録されていた柿原の物件を紹介してもらいました。
築年数はそれなりに経過していましたが、家賃が安く、間取りも広くて気に入りました。でも、この物件に決めた一番の理由はやはり柿原の人のあたたかさですね。
「実際に移住して、あわら市の印象をどのように感じていますか。」
地域に根付いて区の活動をするようになったのが移住して大きく変わったところですね。
また、山や海、川があつて自然が豊かですね。車は不可欠ですが、高速道路のインターチェンジも近いし、車で10分から15分も走れば何かしらの店があるので、それほど不便さは感じていません。
「今後の目標を教えてください。」
今は、就農後の計画を立てている最中です。将来的には夫婦二人で農業しながら生計を立てていくのが目標です。

して、ふくい園芸カレッジに通う森島さんが、令和2年12月に入居しました。区としても、JVが退去して間もない非常にいいタイミングで次の人に引き渡すことができ嬉しく思っています。
「入居された森島さんは県外からの移住者ですが、区民の反応はどうですか。」
縁もゆかりもない地に若い夫婦が来てくれて、諸手を挙げて大歓迎という雰囲気ですね。森島さんが移住して間もないとき、区の総会で、あいさつされたときは拍手喝采でした。今後も村の行事に誘うなどコミュニケーションをとっていきたいです。
「市としては、北陸新幹線開業にむけて空き家の活用を図り、移住定住に繋げていきたいと考えていますが、柿原区がその先進事例となりました。今の考えを教えてください。」
少子高齢化は柿原区でも避けて通れない問題です。空き家もこれから増えていくと思います。県外に出て帰ってこない若者も多いですが、また帰ってきたいと思ってもらえるような、さらには移住者を選んでもらえるような魅力ある集落づくりをしていきたいです。そうすることで、少しでも人口減少を鈍化させていくことができたらいいなと思っています。

移住や空き家の支援体制		
<p>空き家取得等支援補助金</p> <p>「空き家情報バンク」物件を住居として購入・リフォームする場合に必要な費用を支援します。</p>	<p>多世帯同居リフォーム支援事業補助金</p> <p>多世帯で同居を開始するためのリフォーム費用を支援します。※ 契約前の申請が必要です。</p>	<p>多世帯同居・近居促進事業補助金</p> <p>多世帯が同居・近居をするために、新築住宅を購入・建設する費用を支援します。 ※ 令和3年4月1日以降に契約した物件が対象です。</p>
<p>空き家情報バンク登録奨励金</p> <p>「空き家情報バンク」に所有する空き家を登録した場合に奨励金を交付します。</p>	<p>空き家家財処分支援補助金</p> <p>「空き家情報バンク」に登録または登録予定の空き家内にある家財道具を処分するために必要な費用を支援します。※ 契約前の申請が必要です。</p>	<p>補助金には、さまざまな要件があります。詳しくは、ホームページをご覧ください。</p> <p>■ 問合せ 市民協働課 移住空き家対策 G 73-8003</p>

「空き家情報バンク」登録までの流れ

1 宅建業者(仲介業者)が決まっていない場合	2 宅建業者(仲介業者)が決まっている場合
<ol style="list-style-type: none"> 1 市が空き家の情報および、間取り図の作成、写真撮影を行います。 2 バンク登録申込書を提出します。(登録カードは市で作成) 3 市から宅建協会に仲介業者の選定を依頼します。 4 協会から仲介業者の選定結果が報告されます。※ 複数ある場合は、所有者が選定。 5 仲介業者と所有者で、登録に向けた最終調整をします。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 宅建業者にバンク登録の相談をします。 2 所有者または宅建業者が登録カードを作成します(市でも支援可能)。 3 バンク登録申込書を提出します。

↓

空き家情報バンク登録完了

▲ ホームページもチェック